
君に染まる

南瓜姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君に染まる

【Nコード】

N7892L

【作者名】

南瓜姫

【あらすじ】

牧場物語ルーンファクトリー2の二次創作です。

君と出会ったのは薄紅色の花の舞い散る春だった。

「旅の人？」

「はい」

君は、記憶を無くして途方に暮れていた僕に親切にしてくれた。

「はい、ここがあなたにお願いしたい牧場よ」

目の前に広がる荒地に僕は絶句した。

「ここを開墾しろと？」

「ええ、だって食べていかなくちゃいけないでしょ」

僕の戸惑いなど関係なしに、大きなどんぐりまなこをキラキラとさせて、君は僕の手を引っ張っていく。君の手はとても柔らかくて小さくて僕の手の中にすっぽりと納まるほどだった。君の手のぬくもりに動悸が激しくなる一方だ。つないだ手からドキドキが伝わってしまうのじゃないかと心配だった。

このままずっと歩いていたい、そんなことを考えていると、着いたところは町の雑貨屋だった。

「ここ、私のお店なの。牧場で必要な物は揃っているからごひいきにね」

「は、はあ」

「ええと、とりあえずジョウロとクワで200Gです！」

僕は、財布の中味を確認する。せつかくの君の好意を断わらなければならぬ。

「あの、僕300Gしか所持金がないのですが」

「まあ、それは大変！　そうねえ、サクラカブの種をおまけでつけてあげる」

だからお金がないといっているだろう？　今日は何を食べればいいんだよ。僕の叫びなど無視して、君は会計を済ませる。

「あ、私、サクラカブ大好きなの。よろしくね」

なんだ、自分の好物を作らせたいだけじゃないか。でも、僕はそんな君に逆らえない。君の喜ぶ顔が見たいんだ。

「うん、実ったらプレゼントするよ」

「嬉しいわ、カイル！」

君は僕に抱きついて頬を桃色に染める。伝染したように僕の顔もきつと桃色だろう。ああ、付き合ってもいないのに、出会ったばかりなのに、君に染まる僕がいる。しかたないか、一目惚れしちゃったんだから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7892/>

君に染まる

2010年12月9日19時37分発行